

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469
法人名	株式会社ライフサポートジャパン
事業所名	ゆうとぴ庵摂津・千里丘
所在地	大阪府摂津市千里丘東1-13-7
自己評価作成日	令和1年10月18日
評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/28/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	令和1年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうとぴ庵摂津・千里丘では地域との関わりを大切にしており自治会に加入しております。自治会で行われる夏祭りや運動会などのイベントに積極的に参加し、また地域の防災訓練などへも参加して地域の一員としての活動を行っております。他にもご近所の皆様と花火大会を開催し地域交流を図ったり、ボランティアが運営する認知症カフェにも協力し一緒に開催するなど活発な活動を行っております。施設内でも様々なレクリエーションを展開して主に季節を感じていただける行事を企画運営させていただいております。今後も地域に開かれたアットホームなグループホームを目指して取り組んでいきたいと思ひます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅に近い住宅地に位置し、散歩・買い物・通院等生活に便利で、自治会や地域住民の協力が得られる環境である。日常的な外出・地域行事や防災訓練への参加・ボランティアの来訪・事業所の催しへの招待・認知症カフェの開催・ボランティアの育成と定例会等、地域交流と地域貢献を継続し、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように取り組んでいる。会議・委員会・研修を計画的に毎月開催し、職員の資質向上とサービス・運営に反映している。手作りの調理を継続し、季節の行事・毎月の食事レク・外出を企画して行い、生活に季節感や生活感が感じられるように取り組んでいる。建物1階のクリニックのかかりつけ医・看護師と医療連携をとり、希望があれば看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を持って書くフロア毎に掲示の上その理念の共有、実践に繋がっています。	「より良い介護」「感動ある介護」を法人共通の理念とし、事業所の基本方針を策定している。基本方針は8項目の具体的な内容となっており、地域密着型サービスの意義を明文化している。理念・基本方針を玄関と各フロアに掲示し、新人研修と施設内研修で学ぶ機会を定期的に設け、共有と理解を図っている。毎年、理念・基本方針をもとに各フロアの年間目標を策定し、フロア会議で定期的に実践状況を確認し、理念・基本方針の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域とのつながりを大切にし日常的な交流を行っています。	自治会に加入し、地域の夏祭り・秋祭り・運動会・フリーマーケット・防災訓練等に利用所と共に参加し交流している。事業所の花火や夏の催しを、地域を招いている。日常的にも、散歩・買い物等で地域に出かけている。歌や演奏、散歩同行、制作、行事のお手伝い等、ボランティアの来訪と協力を多く受けている。地域ボランティアの育成と定例会の開催、認知症カフェの開催、実習生の受け入れ・AEDの設置案内等、事業所の力を活かした地域貢献も継続している。ラン伴への参加も行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの育成に協力し貢献しています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービス 向上に活かしている	運営推進会議での意見を踏まえてサー ビスの向上に活かしています。	利用者・家族・地域代表(自治会長)・市役所職員を構 成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。知見者とし て、近隣の施設の管理者に参加をお願いしているが実現 していない、会議では、ゆうとぴ庵通信を資料とし、 利用者の状況や事業所の活動や取り組み等を報告 し、参加者と意見・情報交換、質疑応答を行っている。 そこで得た、地域の状況・行事についての情報や助言 等等を、サービスや運営に活かせるように努めている。 議事録ファイルを玄関に設置して公開している。	引き続き、知見者参加に向けた取 組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように取り 組んでいる	市町村とは事業所連絡会などを通じて 連携を図り協力関係を作っています。	運営推進会議に市職員の参加があり、利用者の状況 や事業所の取り組みを伝え連携を図っている。市が派 遣する介護相談員を受け入れ、市・介護相談員との三 者連絡会も開催している。市の事業者連絡会への参 加、介護の日イベントの開催協力、認知症プロジェクト への参加等を通して、市と連携・協働している。福祉的 支援が必要な利用者には、市の支援課と協働して支 援に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束 をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を定期的に行い 施設全体で身体拘束をしないケアに取 り組んでいます。	契約書に身体拘束廃止を明示して利用者家族に説明 し、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束適 正化指針を整備し、マネージャー会議で3ヶ月に1回身 体拘束適正化委員会を開催し、各フロアでチェック表 による確認を行っている。年間研修計画に沿って、「身 体拘束廃止・虐待防止」を実施し、全員が参加できるよ うに研修会を複数回実施し、受講者はレポートを提出 している。フロア会議等でスピーチロックについての注 意喚起を行い、意識向上に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会の検討内 容と、職員の周知について、明確 に記録に残す仕組みを期待しま す。

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為研修を行い事業所内で虐待が発生しないよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修の機会を持ち必要に応じて活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際は十分な説明を行い且つ質問などお答えしご理解をいただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時に直接お尋ねするなど確認しています。	家族の面会時や電話連絡時に、利用者の近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月「ゆうとぴ庵通信」「近況報告書」で事業所の行事や個別の生活の様子を伝え、家族から意見・要望が出やすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、フロア長が集約し、内容に応じて申し送りノートで共有したり、介護計画に反映している。「意見箱」も設置している。利用者・家族が運営推進会議に出席し、外部者に意見を表す機会も設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などを通じて職員の意見や提案をヒヤリングし反映に努めています。	毎月、各フロア会議・マネージャー会議・委員会(生活・食事・コンプライアンス)を開催し、職員が意見・提案を出し合って話し合い、管理者も参加し把握している。各会議では利用者のケア・業務・行事等、各委員会では各々の検討事項について話し合い、サービスや運営に反映している。管理者・フロア長が、適宜個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会も設けている。法人代表者も参加するホーム長会議に管理者が参加し、職員の意見・提案を伝える仕組みがある。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のバックアップや有給の取得など職場環境の向上に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人のスキルや経験に合った内部研修や外部研修の機会を設け環境整備に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の交流イベントなど積極的に参加しネットワーク作り行なっています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の困りごとなど耳を傾け安心いただけるよう関係作りに努めています。		
16		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望などヒヤリングを行いサービスの提供を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今すぐ必要となるサービスを確認し提供に努めています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあう関係であることを自覚し共に生活をする者として関係構築を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人様の関係にも配慮しながら共に支えあう関係作りを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人様がこれまで築いてきた馴染みの関係を大切にしながらその交流を引き続き継続できるよう支援に努めています。	馴染みの人や場所についての情報があれば、フェイスシートや、3ヶ月毎に更新するアセスメントシートに記録している。家族や友人の来訪時には居室でゆっくり過ごせるように配慮し、電話でも対応し、関係継続を支援している。近隣からの入居者も多く、散歩・買い物・地域行事への参加の際に、馴染みの場所に出かけることもある。また、自宅への外出・外泊も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の関係性に注意しながら孤立することなく支えあえる関係の支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや希望の把握に努めて本人の立場に立って検討しています。	入居時に把握した利用者・家族の思いや意向はフェイスシートに記録している。入居後に把握した内容は、介護記録・フロア会議・モニタリング等で共有し、日々のケアや介護計画に反映できるように取り組んでいる。把握が困難な利用者については、表情や言動から汲み取ったり、家族の意見を参考にしたり、アセスメントシート等からの過去の情報を参考にする等、本人の立場に立って検討するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本院、ご家族様から生活歴についてヒヤリングを行い経緯の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方について日々確認し状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよく暮らすための課題など関係者と話し合いそれぞれの意見の反映に努めています。	フェイスシート・アセスメントシートをもとに初回の介護計画を作成し、その後は、定期的には3カ月毎に計画の見直しを行っている。サービスの実施状況は、各種チェック表・ケア実施表・介護記録に記録している。毎日ケア実施表にチェックすることにより、介護計画の内容の周知と計画にもとづく実施の確認を行っている。毎月フロア会議で、利用者の状況の共有とモニタリングを行っている。会議前に職員がモニタリングシートに意見を書き込み、意見が集約できる仕組みがある。計画の見直し時には、モニタリング・再アセスメントを行い、フロア会議で検討している。主治医等関係者の意見があれば、モニタリングシートに記録している。	フロア会議の検討の中で、介護計画見直しのための会議の位置づけを明確にすることが望まれる。

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践の結果など記録し職員間で情報を共有し次のケアへの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時生まれるニーズに対応するため柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し豊かな生活が実現できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望など伺いかかりつけ医と連携し適切な医療の提供を支援しています。	契約時に確認し、利用者・家族の希望に沿った受診支援を行っている。建物1階のクリニックから、24時間連絡可能な内科の往診を定期的に受けられる体制があり、現在は全利用者がかかりつけ医としている。必要時に歯科の往診を受けられる体制もある。他科の通院での受診には概ね職員が同行し、医師への情報提供と受診結果の把握を行っている。往診・通院とも、受診・薬についてはバイタルチェック表に記入し、職員に周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な看護が受けられるよう日常の情報など看護師と連携しています。		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側とも入院時など情報交換を行い円滑にできるよう関係作り行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも重度化、終末期についての説明を行いその後も状態に合わせて説明を重ねて支援に取り組んでいます。	契約時に「重度化に関する指針」と「看取りに関する指針」に沿って、事業所の方針について説明し、「意向確認表」で意向を確認し、「同意書」で同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から状態を説明し、再度家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば、看取りの介護計画を作成し、職員・主治医・看護師等が連携を密にとり、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過については、「発症経過シート」に記録している。年間研修計画に入れ、「看取り介護」についての研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習など学んだり緊急時の研修など備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害について研修行い地域との協力体制も築いています。	年間計画に沿って、毎年2回、昼間・夜間想定で、利用者も一部参加し総合訓練を実施している。非常災害対策についての研修も、年2回実施している。近隣住民と相互協力について話し合っており、また、地域の防災訓練にも参加し、地域との連携に努めている。フロアごとに、非常持ち出し袋を整備している。	当日の訓練内容や訓練実施後の振り返り等を実施報告書を記載し、現状に即した避難方法を検討すると共に、参加できなかった職員に回覧し周知を図ることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシーに配慮し対応心がけています。	年間研修計画に沿って、「個人情報・プライバシー保護」「接遇」研修を実施し、プライバシーや誇りを損ねない言葉かけや対応について周知を図っている。生活委員会で振り返る機会を設け、各フロアに発信して意識づけを行っている。個人記録類は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、写真の使用は「ゆうとぴ庵通信」への掲載・館内掲示に限定している。	今後、写真・映像についての使用について、用途別に文書で意向確認を行ってはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思決定への働きかけ行い支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが実現できるよう支援行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容やお化粧などその人らしいおしゃれの支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人ができることや能力を生かしながらか楽しみが広がるよう支援しています。	委託業者から献立と食材が届けられ、各フロアで調理を行い、手作りの食事を提供している。利用者の状況に応じて、各フロアで食事形態や献立のアレンジに対応している。「食事報告書」で献立ごとに利用者個々の摂食状況を把握し、食事委員会で検討して委託業所に報告している。食事委員会で毎月の食事レク・おやつレクを企画し、季節や利用者の希望を取り入れた献立で、可能な利用者は調理に参加できるように支援している。行事の際は行事食を提供し、喫茶・外食には希望に応じて個別に同行支援している。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に注意しながら一人一人の習慣に応じた支援をおこなっています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて口腔ケアを毎日行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングや習慣など理解してできるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	排泄の自立度について個人差が大きい現状であり、利用者個々に応じた排泄支援を行っている。「排泄チェック表」に排泄状況を詳細に記録し、排泄パターンを把握して声かけ・誘導を行い、可能な限り昼間はトイレでの排泄を支援している。申し送りや毎月のフロア会議で介助方法や排泄用品について検討し、現状に即した支援に取り組んでいる。誘導時の声かけ・ドアの開閉など、羞恥心やプライバシーに配慮した支援の周知に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をはじめ食事、お薬、運動など取り入れながら便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう支援しています。	週に2～3回の入浴を基本とし、利用者の体調・体力・希望に応じて、回数や保清方法を調整している。希望があれば毎日入浴することも可能である。異性介助を嫌がる利用者には同性介助で対応し、入浴を嫌がる利用者には声かけやタイミングを工夫し、「バイタルチェック表」で入浴状況を把握し入浴頻度の確保に努めている。身体状況に応じて2人介助も行い、可能な限り浴槽でゆっくり入浴できるように支援している。しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤などで、入浴をより楽しめるよう工夫している。	

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人によって休息が取れるようその時々状況に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬局にも教えてもらいながら薬の知識、理解を深め支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の趣味、嗜好など考慮しながら力を活かせるレクリエーションなど支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出ができるようご家族様や地域の支援を受け支援しています。	天候や利用者の体調・希望に沿って、散歩・買い物等、日常的に外出できるように取り組んでいる。研修を受講したボランティアが職員に同行することにより、外出機会が増やせるように工夫してる。玄関前のスペースでの外気浴やプランターの花の植栽等、戸外で気分転換を図る時間も設けている。地域の夏・秋祭り、運動会、フリーマーケット等のイベントにも出かけている。初詣・花見・バラ公園・紅葉狩りなど、少し遠出のドライブも含め、季節が感じられる外出も継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の際には本人様にお金を使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙などできるよう支援しています。		

ゆうとぴ庵 摂津・千里丘

52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用スペース作りを工夫しています。	各フロアの状況に応じて、共用空間のテーブル席・ソファ等の配置を工夫し、快適に安全に過ごせるよう配慮している。共用空間・長い廊下・エレベーターホールに、1年間の行事の写真や季節感のある制作が飾られている。調理室から手作りの調理の音や匂いが感じられ、また、洗濯物を干したり、たたんだり、おしぼりを巻いたり、職員と一緒に掃除する等、生活感が感じられるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人が居心地よく過ごせる共用空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れた物を利用いただきながら居心地の良い居室の配置を支援しています。	各居室にベッド・クロゼット・机・椅子等が設置されている。箆笥・鏡台・テレビ・仏壇・写真・人形など、使い慣れた家具や大切な品の持ち込みを勧め、居心地よく過ごせる居室の環境づくりを支援している。自宅のレイアウトに近い家具の配置に配慮し、また、利用者の状況の変化に応じて家具の配置を検討し安全面にも配慮している。居室の入り口の表札を大きく表示し、場所間違いの防止に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の能力を活かし安全かつできるだけ自立した生活がおくれるよう支援しています。		